

8 I 国家戦略特区の指定状況及びワンストップセンターの設置状況

2021年4月時点

ワンストップセンター

- 自動運転
- ドローン
- 自動運転 10カ所
- ドローン 9カ所



8 II 近未来技術実証分科会等及び技術検討会の設置状況

2021年6月時点

近未来技術実証分科会等及び技術検討会

- 分科会
 - 技術検討会
- 分科会 4カ所
➤ 技術検討会 1カ所

注) 仙北市と沖縄県の分科会については、令和2年12月1日に開催した区域会議において近未来技術実証分科会の設置が了承され、今後、必要に応じて開催予定。

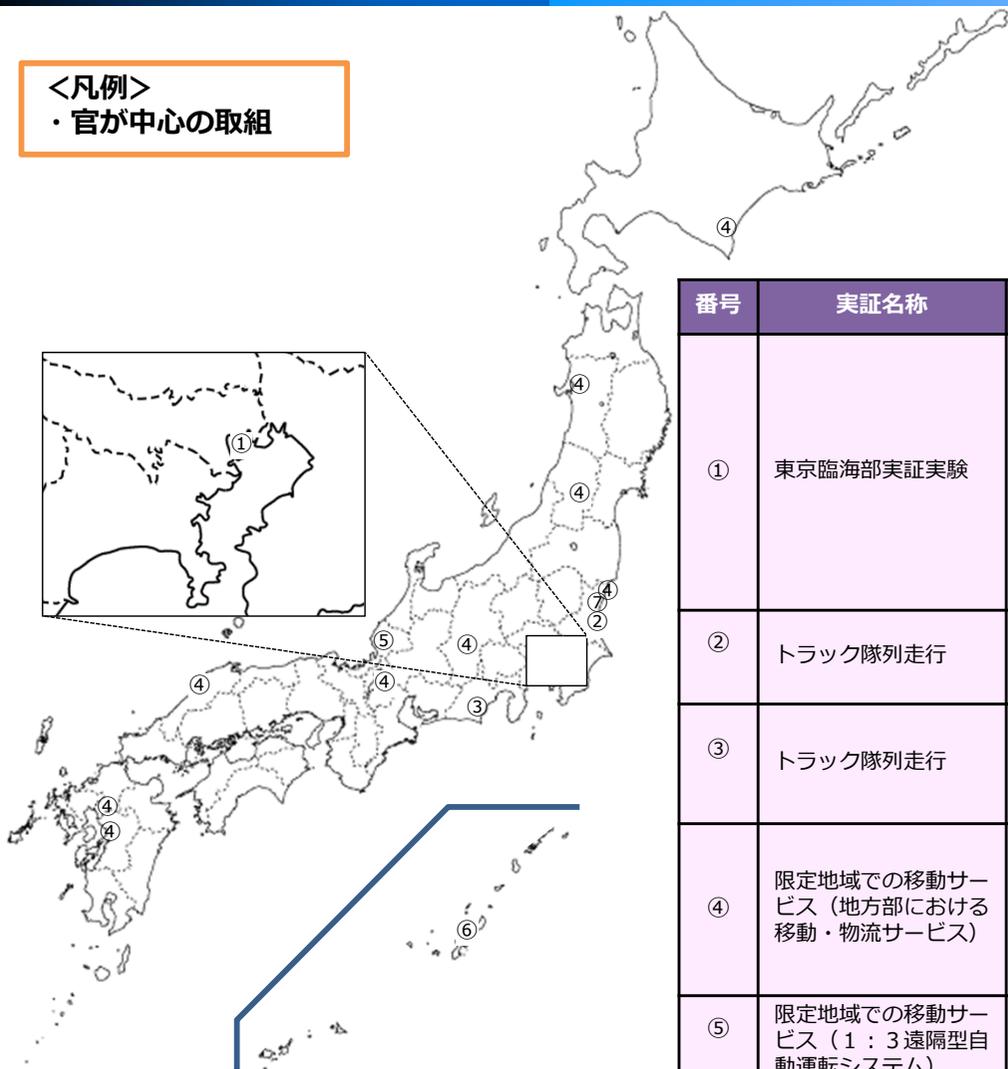


8 III 全国の主な実証実験の状況（自動運転）

(参考)内閣官房情報通信技術（I T）総合戦略室資料に
基づき地方創生推進事務局作成

2021年6月時点

<凡例>
・官が中心の取組



番号	実証名称	実施者／地域	概要
①	東京臨海部実証実験	内閣府・警察庁・ 総務省・経産省・ 国交省/ 東京都臨海副都心 地域等	SIP第2期にてインフラ協調型の自動運転システムの実証実験を実施 ・東京臨海副都心地域を中心として逆光や前方車両による遮蔽時等の場面での信号情報提供による信号灯色認識への有効性及び、ジレンマゾーン回避に対する信号残秒数情報の有効性を確認。また、自動運転に信号情報を活用するための技術要件を策定。 ・公共交通システムの自動運転に関して羽田空港地域においてITS無線路側機を活用したPTPSや専用レーンにより速達性・定時性・快適性が向上することを確認。また、磁気マーカーを活用した自動操舵が正着制御の再現性を向上させることを確認。 ・羽田空港と臨海副都心等を結ぶ首都高速道路において、ETCゲート閉閉情報配信により、スムーズな料金所通過に効果があることを確認。また、スポット通信方式による合流支援情報配信の有効性と課題が明確となったため、連続通信方式について議論を開始。
②	トラック隊列走行	経産省・国交省 ／常磐自動車道	後続車有人隊列走行（導入型）については2021年1月に常磐自動車道にて、共通通信機を使用したマルチブランドによる隊列走行の実証実験を実施。有人隊列走行（発展型）の実現に向け、コンセプトや技術的成立性の取りまとめを実施。
③	トラック隊列走行	経産省・国交省 ／新東名高速道路	新東名高速道路の一部区間にて、後続車無人隊列走行技術の実現に向けた実証を実施。2021年1月に国交省の策定した隊列走行の基本設計書に適合。2021年2月に、新東名（浜松SA～遠州森町PA）にて後続車の運転席を実際に無人とした状態でのトラックの後続車無人隊列走行技術を実現。
④	限定地域での移動サービス（地方部における移動・物流サービス）	国交省・内閣府/ 秋田県上小阿仁村 他全国8カ所	SIP第2期にて、過疎地での移動手段の確保に向け電動カートを電磁誘導線に沿って走行等する自動運転サービスの実証実験を実施。実証実験での知見蓄積により運行サービス等のノウハウを集約・展開するとともに、実装に必要な制度等を整備し社会実装に向け促進。秋田県上小阿仁村においては、2019年11月から社会実装を開始し、一部区間で期間を限定して一般車両が進入しない専用区間を確保し、車内保安運転手が運転席に乗車しない形での無人自動運転サービスを実施。
⑤	限定地域での移動サービス（1：3遠隔型自動運転システム）	経産省・国交省 ／福井県永平寺町	永平寺町にて、2020年12月よりレベル2遠隔型自動運転システム（1：3）を活用した無人自動運転移動サービスを開始。車両を高度化し、2021年3月にはレベル3を達成。今後は2022年度内にレベル4を目指す。
⑥	限定地域での移動サービス（1：2遠隔型自動運転システム）	経産省・国交省) ／沖縄県北谷町	観光地である美浜エリアを中心にレベル2遠隔型自動運転システムの実証を実施。混在空間である公道ルートと、海岸沿いの町有地ルートがあり、2021年3月に町有地ルートで1：2の無人自動運転移動サービスを開始。
⑦	中型自動運転バス	経産省・国交省 ／茨城県日立市	ひたちBRTの専用道区間約7kmでの実証を実施。専用区間内に複数の交差部があり、インフラ連携を組み合わせたレベル2での実証を、2020年11月より実施。
⑧	スマートモビリティチャレンジ	経済産業省・国交省/ 全国50箇所	IoTやAIを活用した新たなモビリティサービスの社会実装に向け、スマートモビリティチャレンジ推進協議会を設立。民間企業や団体等による実証実験への支援を実施。

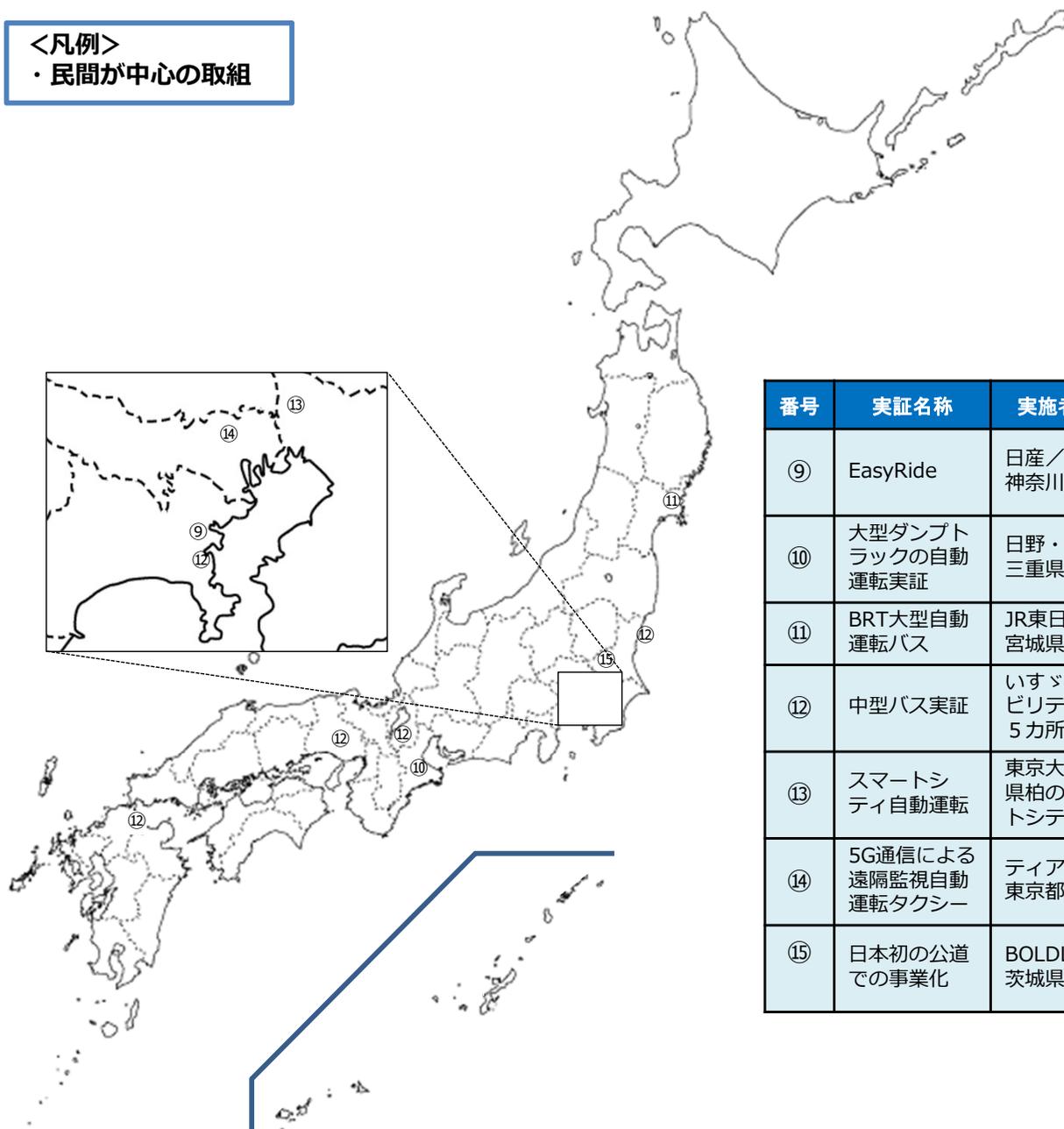
※⑧のスマートモビリティチャレンジは
全国50箇所で開催のため、日本地図には掲載していない。

8 III 全国の主な実証実験の状況（自動運転）

(参考)内閣官房情報通信技術（I T）総合戦略室資料に基づき地方創生推進事務局作成

2021年6月時点

<凡例>
・民間が中心の取組



番号	実証名称	実施者／地域	概要
⑨	EasyRide	日産／神奈川県横浜市	DeNAと連携し、日産の電気自動車を使用する自動運転車両を用いて、みなとみらい区での実証実験を2018年から実施。無人車両の運用に関する課題抽出や解決策を模索しつつ、2020年代早期のサービス実用化を目指す。
⑩	大型ダンプトラックの自動運転実証	日野・大林組／三重県伊賀市	2020年11月より川上ダムにて、自動運転大型ダンプトラックにより、約1.3 kmを最高30 km/hで走行する実証を実施。今後は、荷積み・運搬・荷下ろしまで一貫したオペレーションを目指していく。
⑪	BRT大型自動運転バス	JR東日本／宮城県登米市	宮城県気仙沼BRTの専用区間（交差点なし）の一部約4.8 kmにて、2021年1月より実証を実施。今後レベル3での運行を目指す。
⑫	中型バス実証	いすゞ・先進モビリティ／全国5カ所	2020年7月より、中型バスを使用した自動運転移動サービス実証を全国5カ所で開催。実証では、限定空間から混在空間まで、インフラ連携も活用しながら様々な環境を走行。
⑬	スマートシティ自動運転	東京大学／千葉県柏の葉スマートシティ	レベル2小型自動運転バスの営業運行を通じ、レベル4以上の実現を目指す。2021年から自動運転バスを小型から中型へ変更すると共に、信号機と連携した実証実験を実施予定。
⑭	5G通信による遠隔監視自動運転タクシー	ティアフォー／東京都西新宿	5Gを活用した遠隔監視自動運転タクシー（1：1）の実証や、配車アプリと連動したデマンド型自動運転タクシーの実証を実施。2020年11月にレベル2実証を実施。
⑮	日本初の公道での事業化	BOLDLY／茨城県境町	2020年11月より5年間、一般公道における車内保安運転手が乗車する形（レベル2）での3台の自動運転バスの定常運行を開始。往復5キロメートルのルートでNAVYAARMAを運行。

8 III 全国の主な実証実験の状況 (無人航空機)

(参考)内閣官房小型無人機等対策推進室資料に基づき地方創生推進事務局作成

2021年6月時点

○ 過疎地・離島物流

○ 医薬品物流

○ 農作物物流

みさとちよう
島根県美郷町
美郷町、佐川急便(株)



とのしょうちよう
香川県土庄町
土庄町、佐川急便(株)



やぶ
兵庫県養父市
日本航空(株)、テラドローン(株)、養父市



いしかりぐんとうべつちよう
北海道石狩郡当別町
ブルーイノベーション(株)、当別町



よしかちよう
島根県吉賀町
(株)トラジェクトリー、吉賀町

ふくおか
福岡県福岡市
ANAホールディングス(株)、福岡市



えちぜんちよう
福井県越前町
越前町、佐川急便(株)



ちちぶ
埼玉県秩父市
(株)ゼンリン、秩父市、(株)日通総合研究所

あしがらかみぐんやまきたまち
神奈川県足柄上郡山北町
(株)NTTドコモ、神奈川県

おだわら
神奈川県小田原市
慶應義塾大学SFC研究所、神奈川県、ブルーイノベーション(株)



ごとう
長崎県五島市
ANAホールディングス(株)、五島市



つくみ
大分県津久見市
ciRobotics(株)、大分県、(株)日通総合研究所



たけた
大分県竹田市
(株)イー・ディー・イー、大分県、(公財)ハイパーネットワーク社会研究所、(株)オーイーシー



おおさきかみしま
広島県大崎上島町
大崎上島町、佐川急便(株)

※ 先頭に記載の事業者が代表事業者

8 IV 国家戦略特区における近未来技術実証の取組み

仙北市 国際ドローン競技会

【時期】2016年7月

【概要】

・申請から免許発給までの手続きを原則即日発給とする**特定実験試験局制度に関する特例を活用**し開催。

・本特例により5.6GHz帯の電波を使用。

・中国や韓国をはじめとするアジア8か国のトップパイロットが集結。ドローンに係る日本初の国際大会。

ドローンインパクトチャレンジ
アジアカップ2016



当日の様子→

仙北市 全国初のレベル4相当の自動運転

【時期】2016年11月

【概要】

・運転席がなく運転手がない自動運転バスに人を乗せ、公道で走らせる**全国初となるレベル4相当の実証実験を実施**。

・通行止めにした県道約400mを時速約10キロメートルで走行した。

・60名を超える一般モニターが参加。

DeNA社ロボットシャトル
実験車両→



東京都・愛知県 全国初の遠隔型自動運転システム実証実験

【時期】2017年12月

【概要】

・公道における自動走行の実証実験を促進するため、必要手続きの情報提供、相談、援助等を行う自動走行実証ワンストップセンターを設置。

・**全国初の遠隔型自動運転システムの公道実証の支援を行い**、東京都と愛知県の同日において実証実験が実施された。

・利用者アンケートを実施したところ、満足度は非常に高い。

・民間事業者の関心が高く、自動車関連産業の促進も期待。



遠隔型自動運転実証の様子→

千葉市 注文から受取までの一連の流れを想定した宅配デモ

【時期】2018年10月

【概要】

・**商品の注文から、玄関の受取りまでをほぼ無人で行う一連の流れ**のデモンストレーションを実施。

・倉庫から商品をマンション前のドローンポートまで配送。人力で商品を持ち替え、配送ロボットが個人宅玄関まで荷物を配送。



8 IV 国家戦略特区における近未来技術実証の取組み

東京都 自動運転バスの実証実験

【時期】2019年2月

【概要】

・多摩市の多摩ニュータウン内において、交通結節点から起伏に富んだ団地内を經由し商業施設を結ぶ自動運転バスの実証実験を実施。

・本実証実験は、「東京自動走行ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・自動運転の受容性や地域内移動手段の可能性に関する調査を実施。

日野自動車製小型バス「ポンチョ」実験車両→



愛知県 複数台の遠隔型自動運転の実証実験

【時期】2019年3月

【概要】

・常滑市中部国際空港島の一般公道等で、遠隔監視・操作が可能な自動運転車両を2台同時に走行させる実証実験を実施。

・本実証実験は、「あいち自動運転ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・併せて、信号機に設置した無線機からの情報を自動運転車両に送信し、周辺環境に左右されない信号認識の実証実験を実施。

遠隔型自動運転実証の様子→



千葉市 ドローンの新たな使用可能性の検証に関する実証実験

【時期】2019年7月

【概要】

・千葉市内において、ドローンの橋梁、トンネル点検業務への使用可能性の検証のため実施。

・本実証実験は、「ちばドローン実証ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・併せて、非GPS環境下及び暗所における実証実験も実施された。また、ドローンの自律飛行による安全な橋梁点検を可能とする技術開発(位置制御)に関する実証実験も実施している。

橋梁点検の様子→



東京都 特殊仕様自動車による実証実験

【時期】2019年7月

【概要】

・ハンドル等がない自動運転バスを使用し、ザ・プリンスパークタワー東京敷地内にて、実証実験（一般試乗会）を実施。

・本実証実験は、「東京自動走行ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・車両は、フランスNavya製のARMAを使用。

・車内には運転手及び保安要員が乗車し、緊急時は手動運転に切り替える。

Navya製のARMA 実験車両→



8 IV 国家戦略特区における近未来技術実証の取組み

福岡市 海上における2路線同時の目視外・補助者無の実証実験

【時期】2019年7月

【概要】

・ドローンを活用した物流困難地域への配送実装を目指し、海上において、2路線同時に目視外・補助者なしの実証実験を実施。

・本実証実験は、「福岡市近未来技術実証ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・実証においては、オペレーションのマニュアル化やLINEを利用した宅配サービス、有人機監視用の管制システムの課題整理が目的。

実証実験の様子→



愛知県 遠隔監視による自動運転の実証実験

【時期】2019年12月

【概要】

・愛知県海部郡飛島村の公道及び一部敷地内において、住民サービスの向上とまち全体の活性化と魅力向上を図ることを目的に実施。

・本実証実験は、「あいち自動運転ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・遠隔監視用カメラの映像を保険会社がトラブル対応サービス研究拠点として設置したセンターへリアルタイムに配信し、遠隔監視を実施。

実証実験の様子→



横浜市 遠隔監視・操作での自動運転の実証実験

【時期】2020年10月

【概要】

・横浜市よこはま動物園正門と里山ガーデン正面入口を結ぶ約900mの人と車が往来する混在交通環境下において、日本初となる大型バスによる運転席無人、遠隔監視・操作での自動運転の実証実験を営業運行で実施。

・本実証実験は、「I・TOP横浜実証ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・「I・TOP横浜」の取り組みとして「路線バス自動運転プロジェクト」を相鉄バスと共同で立ち上げ、自動運転「レベル4」による営業運行を目指す。

相鉄バス保有の実験車両→



北九州市 中型自動運転バスによる実証実験

【時期】2020年10月

【概要】

・JR朽網駅と北九州空港を結ぶ既存の路線バスのルート（約10.5km）において、産業技術総合研究所が開発した中型自動運転バスを使用して社会実装と公道走行を目指す。

・本実証実験は、「北九州高度産業技術実証ワンストップサポートセンター」の支援を受けて実施。

・信号情報伝達時間の短縮のため、車両と信号機との直接通信を実施。また、交差点に設置したカメラ等の情報から、AIが危険情報を予測し、車両へ伝達することで、安全・円滑な自動走行を実施。

実証実験の様子→



8 IV 国家戦略特区における近未来技術実証の取組み

東京都 自動運転タクシーの事業化に向けた実証実験

【時期】 2020年11月

【概要】

・西新宿エリアで5Gを活用した自動運転タクシーにおいて、KDDI新宿ビルから京王プラザホテルまでを遠隔型自動走行と非遠隔型自動走行での実証実験を実施。

・本実証実験は、「東京自動走行ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・自動運転サービスの事業化に向けた課題抽出、採算性やニーズの分析、地域の課題に対応した新たな移動サービスの在り方を検討。

実証実験の様子→



仙台市 ドローンによる8K動画での空中撮影の実証実験

【時期】 2021年1月

【概要】

・仙台市青葉区作並、新川、大倉地区においてドローンを使って高精細の8K動画で地域を空撮するとともに、地域住民を集めた録画映像の上映会を実施。

・本実証実験は、「仙台市近未来技術実証ワンストップセンター」の支援を受けて実施。

・災害時の人命救助や被害把握の可能性を探るとともに、次世代通信規格5Gと組み合わせリアルタイムで映像を共有するシステムの研究開発が目的。

実証実験の様子→



千葉市 花見川河川上の道路・鉄道橋横断に関する実証実験

【時期】 2021年2月

【概要】

・千葉市内において、ドローンを活用した宅配サービスの実現を目指し、美浜大橋やJR京葉線鉄道橋を横断する、花見川上空飛行の実証実験を実施。

・JR上空は電車の通行していない時間帯に飛行。道路上空飛行時には車や歩行者を一時停止させるなどして第三者の上空飛行とならないよう配慮。

・配達時間の短縮等による利便性の向上や、物流業界が抱える人手不足、配送コストの削減等の課題解決が目的。

実証実験の様子→



千葉市・横浜市 東京湾縦断ドローン長距離飛行の実証実験

【時期】 2021年6月

【概要】

・横浜市・千葉市間（約50km）の東京湾縦断飛行を、飛行レベル3（無人地帯での目視外・自律飛行）にて実施。

・本実証実験は、「千葉市ドローン宅配等分科会」及び「技術検討会」並びに「I・TOP横浜実証ワンストップセンター」を通じて実施。

・配達時間の短縮等による利便性の向上や、物流業界が抱える人手不足、ラストワンマイルの問題、配送コストの削減等の課題解決を目的として、都市部におけるドローンを活用した宅配サービスの実現を目指すための実証実験。

